

経営比較分析表（令和3年度決算）

石川県 白山市

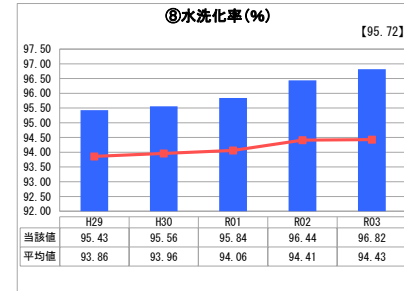
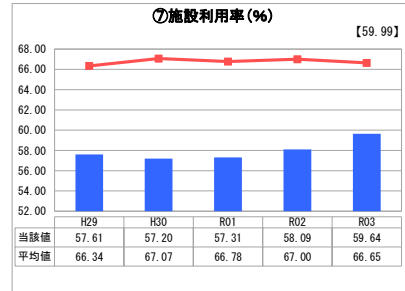
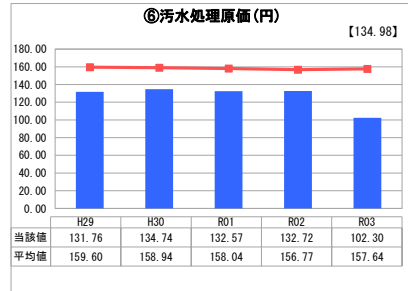
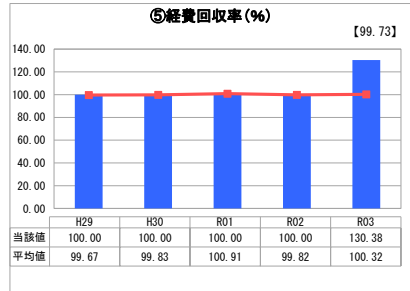
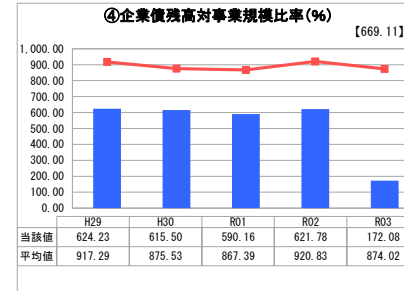
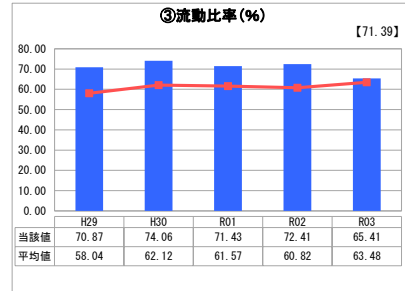
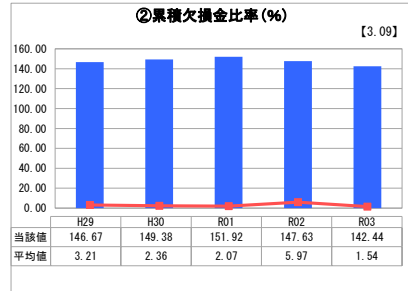
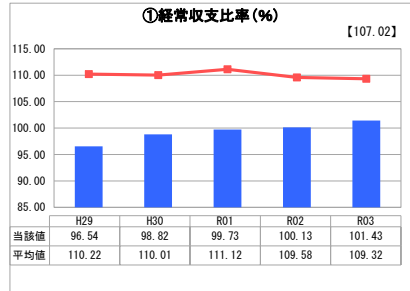
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ad	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	有収率 (%)	1か月20m ³ 当たり家賃料金 (円)
-	38.46	90.84	91.33	2,662

人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
113,136	754.92	149.86
処理区域内人口 (人)	処理区域面積 (km ²)	処理区域内人口密度 (人/km ²)
102,498	26.99	3,797.63

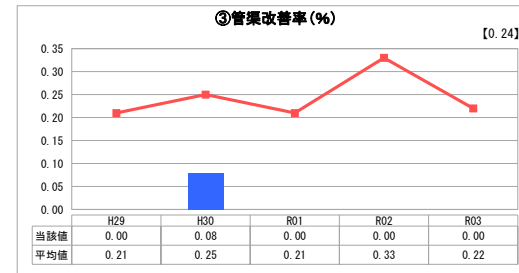
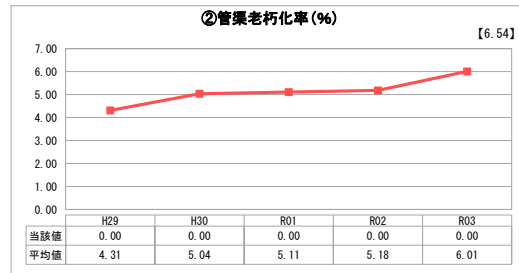
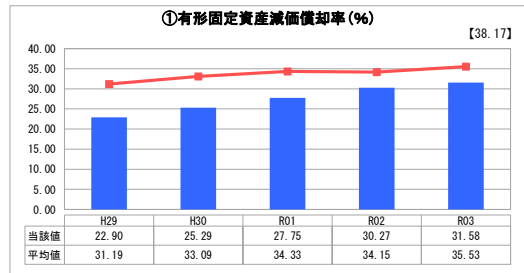
グラフ凡例

- 当該団体値 (当該値)
- 類似団体平均値 (平均値)
- 【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

例年経常収支比率が100%に及ばず赤字を示していたが、徐々に改善しR2年度以降黒字となった。今後も収支の改善に努め、累積欠損金の解消に取り組む必要がある。経費回収率については平成27年度の料金改定以降100%を超える水準で推移している。なお、企業債残高はR3年度は大きく減少しており、住居系の面整備も完了していることから、今後は施設の更新需要を見据え、引き続き企業債残高の抑制に努め、経営の健全化を図っていく必要がある。

このほか、施設利用率については、施設の処理能力がやや過剰で効率性が低いが、現在、処理区の統合を進めていることから、利用率は上昇するものと思われる。

2. 老朽化の状況について

減価償却率は今のところ低く、管渠は比較的新しい状態ではあるが、ストックマネジメント計画に基づき、後年度における管渠更新投資の平準化に努める必要がある。

全体総括

管渠の老朽化が始まるまでに、さらなる経費の節減と使用料金の見直しにより、利益の確保、累積欠損金の解消に取り組む、早期に良好な経営状態となることが重要である。そのためには、将来の管渠更新や企業債の償還に備え、適切な規模の更新計画と財務計画を検討していく必要がある。

なお本市においては、事業の効率化のため処理施設の統廃合を順次進めているところであり、更新費用の縮減により更なる経営の健全化を図っていくこととしている。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。